



総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課長

中沢 淳一

Junichi Nakazawa

平成 2年 4月 郵政省入省
 平成 2年 7月 同 通信政策局宇宙通信開発課
 平成 8年 7月 同 通信政策局地域通信振興課課長補佐
 平成 9年 7月 社団法人電波産業会
 平成 11年 7月 郵政省通信政策局通信規格課課長補佐
 平成 13年 1月 総務省情報通信政策局通信規格課課長補佐
 平成 13年 7月 同 総合通信基盤局電波部基幹通信課無線局検査官
 平成 14年 8月 同 総合通信基盤局電波部基幹通信課課長補佐
 平成 15年 8月 同 総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課課長補佐
 平成 17年 8月 独立行政法人情報通信研究機構情報通信部門研究主管・情報セキュリティ推進室長
 平成 18年 8月 総務省総合通信基盤局電波部電波環境課企画官
 平成 19年 7月 文部科学省初等中等教育局参事官付情報教育調整官
 平成 21年 4月 同 生涯学習政策局参事官付企画官・情報教育調査官
 平成 21年 7月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部データ通信課企画官
 平成 23年 7月 同 総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課番号企画室長
 平成 24年 8月 同 情報流通行政局衛星・地域放送課技術企画官
 平成 25年 7月 官民交流派遣(株式会社セールスフォース・ドットコム)
 平成 27年 8月 現職

モバイルコミュニケーションの進化と普及に向けて

携帯電話やスマートフォンなどのモバイルによるコミュニケーションが当たり前になり、日頃の生活やビジネスに欠かせないものとなっています。さらに、次の規格となる第5世代移動通信システム(5G)は、従来の3Gや4Gとは一線を画する特徴を持ち、到来するIoT社会の基盤技術としても期待されています。こうした進化を生活やビジネスの変化として実感できるよう、実証実験などを通じて新しいサービスやユーザ体験として実現していく道筋をつけられればと考えています。

また、一方で、このようなモバイル技術の恩恵を多くの人々に届けることも大切な仕事です。携帯電話が利用できない地方や場所における基地局の整備に対する支援も行っており、2020年の東京オリンピック・パラリンピックも視野に、観光やビジネスにより多くの人・場所で使っていたりできるような施策の充実を図っています。

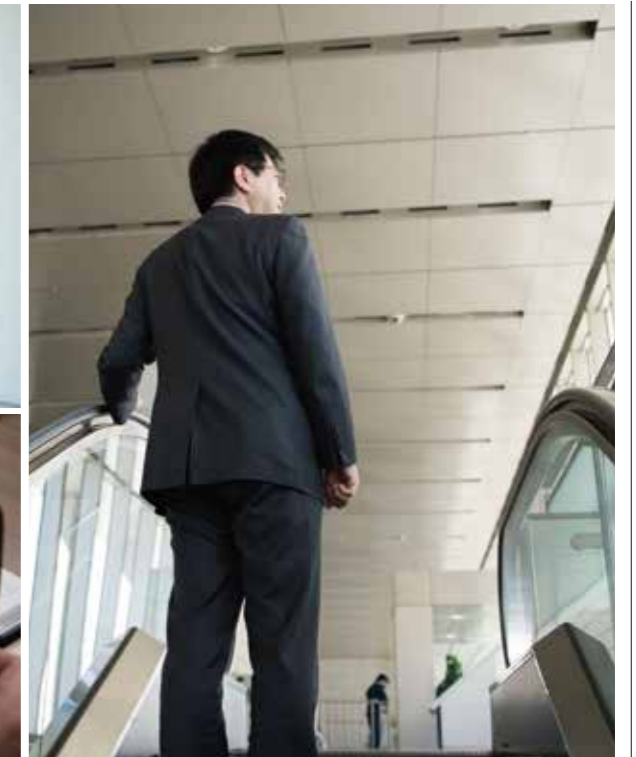
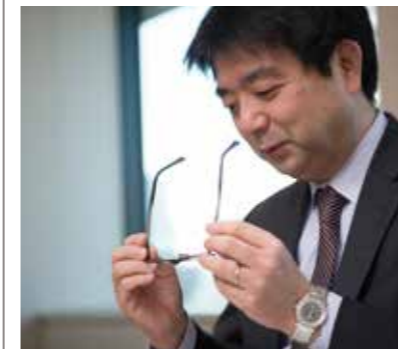
より安全で快適なモビリティ社会へ

モバイル技術を生かした重要な分野の一つとして自動車、交通の分野が挙げられます。高速道路の料金収受に用いられているETC、自動車の衝突防止を支援するための車載レーダは、すっ

かり身近な存在になっています。こうしたITS(高度道路交通システム)の実現においても、総務省は、電波の利用に関する制度整備、研究開発などを通じ、関係省庁や自動車業界とも連携して取り組んでいます。

特に現在は、自動走行などの次世代ITSの実現に積極的に取り組んでいます。関係省庁と連携し、公道での実証実験などを進め、来るべき自動走行時代に向けて様々な分野への応用も視野に豊かなモビリティ社会の実現を目指しています。

この他、ロボットやドローンなども電波の利用が欠かせないシステムとして期待が高まるものと考えられます。新しいシステムが秩序ある形で



モバイルの進化で生活とビジネスを変革

利用されるようにすることが、様々な産業分野の発展に寄与することになると考えています。

総務省の仕事について感じる

総務省の仕事として、私が現在担当している電波やモバイル技術についてお話をさせていただきましたが、これに限らず、総務省の仕事は皆さんの生活の身近なところに関わり、ユーザ目線で取り組む仕事が多いと感じます。同時に、国際的な競争や協調と関わる分野でもあり、グローバルな視点なくして仕事を進めることは

できません。

このように我が国の成長産業であるICT分野を支える仕事ですので、動きも激しいですが、多くの第一線の方々と同様、自ら成長を実感できる職場でもあったと感じます。皆さんも総務省のチームの一員となって、ともに新しいチャレンジをしてほしいと思います。

動くところに情報や人は集まる

私の経験から、政策を検討する上で大切なのは、産業界、学界、利用者などの声をよく聞くこ

とだと感じています。また、仕事はひとりでするものではありませんから、上司や同僚とのコミュニケーションを円滑に図ることも非常に重要です。モバイルをはじめICTの世界は、若い人たちの感覚や発想が非常に重要であり、彼らが話しやすい環境づくりも大切にしています。動くところに情報や人は集まる。自ら動いて、いろいろな人と関わり、いろんな情報に触れ、それらを俯瞰し、いろいろな人を巻き込んで実行していく。そうした意欲と可能性をもった皆さんが総務省に少しでも魅力を感じてくれることを期待しています。

Project

第5世代移動通信システム(5G)の推進

現在利用されている携帯電話・スマートフォンは3Gや4Gと呼ばれるものですが、総務省では、次の世代のモバイルシステム、すなわち5Gに向けた取組を既に始めています。

新しいシステムの実現は、実に様々な取組によって成し遂げられるものです。次の10年を見据え、研究開発の推進、標準化や周波数確保のための国際連携、サービスイメージの構築、そして何より、これらを産業界、学界、利用者といった多くの方々と共に共有しながら前進させることが大切です。

現在、総務省では、5Gの実現に向けて、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年を目標に、産学官連携の結節点となる第5世代モバイル推進フォーラム(5GMF)の設立、研究開発、国際標準化、情報発信に積極的に取り組んでいます。



5Gシンポジウムで講演する筆者



若手職員の声 総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課 谷田 栞 (平成27年入省)

移動通信課では、携帯電話・アマチュア無線等の無線局の許可可、携帯電話等エリア整備事業、5G(次世代移動通信システム)やITS(自動走行)をはじめとする新しい移動通信システムに関する業務等、幅広い業務を扱っています。私自身も入省してから、制度改革、研究開発等の予算業務といった様々な業務に携わりました。多様な業務を通じて省内外の多くの人と関わることができ、また、先進技術に触れる機会も多く、一年目から様々な知識を吸収することができました。

中沢課長は、職員数が多く業務も多岐にわたる移動通信課において、それぞれの業務を細部まで把握し、お忙しい中でも、丁寧に対応してくださいます。また、若々しく明るいお人柄で、課職員とのコミュニケーションを大事にしてくださり、大規模な課をまとめてくださっています。中沢課長の下、課一同、居心地の良い職場で日々の業務に取り組んでいます。